

高齢化が進む中山間地でもやり次第で現金収入UP!
JA鹿本での取り組みを追いました。

やってよかった「シュガグリーン」!

「シュガグリーン」で空きハウスを再活用、作付意欲溢れるベテラン生産者が大平莢インゲン作りに挑戦!

熊本県の鹿本地区は北は福岡県、南は熊本市に接する南35kmに及ぶ地域です。南部には肥沃な土地を利用したスイカ・メロンに代表される施設園芸地帯が広がり、北部は菊池川水系の豊かな水に育まれた水田地帯、山麓地帯では林業も盛んです。

価格低迷や高齢化によって、スイカ・メロンの作付を断念する農家が増加

近年、青果価格の低迷や生産者の高齢化の影響もあり、出荷調整に体力の必要なスイカやメロンの栽培を辞める生産者が増えています。それに伴い、地域に空いたハウスが目立つようになりました。JA鹿本では、そんな状況に危機感をおぼえ、空きハウスを有効に利用した農家の現金収入アップにつながる取り組みを始めました。その取り組みのひとつとして09年春に取り組んだのが大平莢インゲン「シュガグリーン」です。

「シュガグリーン」に取り組むメリット

生産者の主なメリット:

- ①瓜類に比べて軽いので、収穫作業にかかる労力を大幅に軽減できる
- ②秀品率が高く、出荷調整が容易
- ③通常の丸莢と簡単に差別化が可能で売りやすい。
- ④今後、需要の伸びが期待できる野菜であるなどが挙げられます。

初めての「シュガグリーン」の栽培、試行錯誤の末、収穫へ

JA鹿本で行った事前説明会に参加した生産者のうち、上記のメリットを踏まえて最終的に「シュガグリーン」を栽培すると決めたのは10名でした。3月初めにポット播種して育苗し、3月中旬にそれぞれのハウス内に定植しました。生産者の努力と、JA鹿本の営農指導スタッフの巡回指導の甲斐あって、5月下旬に初収穫にこぎつけました。

価格も安定し、気持ちは既に来年へ…

予め売り先を確保した今春の取り組みでは、価格は安定し、生産者は最後まで高い意欲を保ったままシュガグリーン栽培を終了しました。結果に満足された皆様の心は、既に来年春の作付に向いています!



JA鹿本では収穫に先立ち、「シュガグリーン」出荷専用のダンボールを作成しました。



営農担当者が圃場を巡回指導。



収穫した「シュガグリーン」を囲んで。来春も「シュガグリーン」に取り組めます。